INTERVIEW

大分市医師会立 アルメイダ病院 婦人科部長
佐藤新平先生

自治医大卒業生のキャリア形成のために

聞き手：山田隆司　地域医療研究所長

産婦人科医を目指して

山田隆司（聞き手）　今日は，大分県の大分市医師会立アルメイダ病院に佐藤新平先生のお話を伺いに訪問しました．佐藤先生はお父さんの影響も受けて，自治医大二世ということで活躍されていますが，昨年から「月刊地域医学」の編集委員も務めていただいています．

まず，先生の経歴を簡単にご紹介ください．

佐藤新平　私は2007年に自治医科大学を30期で卒業し，大分県立病院で２年間の初期研修をしました．大分県の卒業生は全員，初期研修先は県立病院です．その後３年目に自治医大に戻り後期研修をしました．というのは，それまで大分県では後期研修は義務年限外扱いであった（後期研修を取得すると，義務年限がその分延長されていた）のですが，翌年から義務年限内扱いに変わる（後期研修を取得しても，大分県の認めた研修病院であれば義務年限は延長されない）ことが決まっていました．そのため，その年の後期研修枠が空くことになったのですね．たまたま後期研修枠が空いたことと，私自身が専攻科を産婦人科と内科とで悩んでいたことが重なりました．自治医大の卒業生は内科や小児科を選択される卒業生が多いのですが，産婦人科医である父（佐藤充弘先生，２期）を見ていたり，大分県の卒業生には 北條充雄先生（９期），室康治先生（12期），軸丸三枝子先生（17期）という産

婦人科の先生がいらしたので，自分も産婦人科を視野に入れ，産婦人科の後期研修を選択しました．その当時は，後期研修を経験してみて産婦人科への志を継続できなさそうであれば，産婦人科を諦め内科に変更する気持ちでした．

山田　それまで後期研修は義務年限の中に数えられなかったのですか．

佐藤　はい．当時そういう県は多かったと思います．

山田　そうなのですか．岐阜県は初期研修後の７年のうちに後期研修を２年取ることができましたよ．

佐藤　それはとても恵まれた県だと思います．未だに後期研修は義務年限外扱いであったり，１年しか認められていないというところもあるようです．

そういうことで，３年目に自治医大産婦人科で１年間の後期研修を行いました．当時の自治医大産婦人科には，２期生で父の同級生であった松原茂樹先生（東京２期）が産科教授で，大口昭英先生（富山10期），高見澤聡先生（東京12期），嵯峨泰先生（秋田16期），桑田知之先生（宮城19期），髙村一紘先生（宮崎28期），益子尚子先生（栃木30期）がいらして，そのほかにも多くの自治医大卒業生が自治医大産婦人科関連病院や大学院などにいらっしゃいました．そこで後期研修を受けたことで，自分も同じように産婦人科医を目指したいと強く思うようになりました．また当時，大分県中津市の中津市民病院産婦人科では，医師派遣を担っていた九州大学からの医局員の引き上げで地域周産期診療が危ぶまれる状況になっていました．そこで引き上げられてしまった中津市民病院の産科診療を再開させるために，大分県，大分大学産婦人科，大分県産婦人科医会が連携して，医師派遣を調整しようという流れになっていました．そういう背景もあって，私は４年目から大分大学の先生と一緒に，中津市民病院で一度閉じた産科診療を再開するお手伝いをすることになりました．

山田　では４年目は産婦人科専攻医のような位置付けだったのですか．

佐藤　はい．ところが，産婦人科の診療はできましたが，一度産婦人科の常勤がいなくなってしまった時期があったため研修施設とは認定されず，研修期間にはなっていませんでした．

山田　そこには何年いたのですか？

佐藤　６年目までの３年間です．

山田　その３年間は義務年限としてはカウントされたのですね．

佐藤　はい．

山田　産婦人科の医師は何人いたのですか．

佐藤　最初は科長と私の２人でお産を再開し，その後大分大学からの派遣が徐々に増えて最終的には４人体制でした．

山田　では，研修歴にはならなかったもののお産の経験は積めたのですね．

佐藤　そういう面白い経験ができたという意味ではよかったのかなという思いと，それが研修期間として認定されていればもっとスムーズに産婦人科専門医の資格を取れたのにという残念な思いがありました．

山田　７年目は？

佐藤　中津市民病院の産婦人科はある程度落ち着いたので，そろそろへき地に行きなさいということで，７年目で姫島村診療所に赴任しました．

山田　姫島では，産婦人科的な診療はなかったのですか．

佐藤　なかったですね．かつては島でお産をしていたようですが，今は34～35週近くになると島を